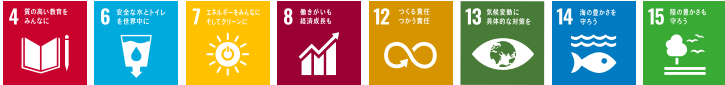


「TDK環境・安全衛生活動」2025年度の実績と2026年度行動計画

制定:2016年4月1日
改訂:2026年4月1日

【1】TDK環境活動 CO₂排出原単位 50%改善(2035年度まで)

TDKの環境負荷・環境貢献量をCO₂へ換算し、原材料から製品の廃棄までのCO₂売上原単位を基準年度2014年度から50%改善する



活動項目	2025年度				2026年度		スコープ No. ^{※1}	2030年度(135期)		2035年度 (創立100周年)	
	目標	主な活動施策	実績	達成状況	目標	主な活動施策					
(1) 生産拠点のCO ₂ 排出量削減	エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位 前年度比 1.8%改善	● CO ₂ 排出量を前年度比 2.0%相当量の施策により削減 ● SBTi基準に基づいたCO ₂ 排出量自主目標値の設定	前年度比9.0%改善	達成	エネルギー起源CO ₂ 排出量総量 前年度比 4.2%削減	● CO ₂ 排出量を前年度比 2.0%相当量の施策により削減 ● SBTi基準に基づいたCO ₂ 排出量自主目標値の設定	1, 2	エネルギー生産原単位 2020年度比 28%向上	● エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位 2014年度比 40%改善 ● エネルギー起源CO ₂ 排出量総量 2021年度比 42%削減	—	
(1)-a エネルギーの有効利用	エネルギー生産原単位 前年度比 2.8%改善	● エネルギー使用量を前年度比2.0%相当量の省エネ施策により削減 ● エネルギー使用量に基づく原単位の計画値を算出し、削減計画を立案・実行する ● 生産に関わる詳細なエネルギー使用の見える化 ● エネルギー生産性を高めた生産プロセスの開発	前年度比2.8%改善	達成	エネルギー生産原単位 前年度比 2.8%改善	● エネルギー使用量を前年度比 2.8%相当量の省エネ施策により削減 ● エネルギー使用量に基づく原単位の計画値を算出し、削減計画を立案・実行する ● 生産に関わる詳細なエネルギー使用の見える化 ● エネルギー生産性を高めた生産プロセスの開発		再生可能エネルギー導入率 75%		—	
(1)-b 再生可能エネルギーの利用拡大	再生可能エネルギー導入率 50%	● 再生可能エネルギー購入ソースの探索 ● エリア目標値達成に向けた施策の推進(スコープ2)	導入率 63.7%	達成	再生可能エネルギー導入率 55%	● 再生可能エネルギー購入ソースの探索 ● エリア目標値達成に向けた施策の推進		2	再生可能エネルギー導入率 50%(スコープ 2)	再生可能エネルギー導入率80%	
(2) 水資源 取水量の削減	取水量原単位 前年度比 1.5%改善	● 製造拠点の水使用(取水)量原単位 前年度比 1.5%改善 ● 循環利用率の向上	前年度比 2.1%改善	達成	取水量原単位 前年度比 1.5%改善	● 製造拠点の取水量原単位 前年度比 1.5%改善 ● 循環利用率の向上	3		ライフサイクル視点でのCO ₂ 排出原単位 50%改善		
(3) 資源の有効利用	排出物原単位 前年度比 1.5%改善	● 製造拠点の排出物原単位 前年度比 1.5%改善 ● 材料歩留の改善 ● 再生化および再利用の推進 ● 資材調達コスト削減 ● ゼロディフェクトの追求	前年度比 7.8%悪化	未達成	排出物原単位を2028年度までに3.6%改善(2025年度比)	● 排出物資源転換率85%以上および熱回収率13%以下に向けた施策の推進 ● 資材調達コスト削減 ● ゼロディフェクトの追求					
(4) ライフサイクル的視点でのCO ₂ 排出量削減	スコープ 3 取組みによる環境負荷低減の推進	● 低・低環境負荷材料使用の推進(C1) ● グローバルでの物流CO ₂ 削減取組みの推進(C4) ● 組織全体でサーキュラーエコノミーを推進 ● 再生可能エネルギー市場販売拡大の推進(C11)	● 物流CO ₂ 13t削減 ● 排出物のマテリアルリサイクル推進	達成	スコープ 3 取組みによる環境負荷低減の推進	● 低・低環境負荷材料使用の推進(C1) ● 物流CO ₂ 排出量原単位を2021年度比30%改善(C4) ● 組織全体でサーキュラーエコノミーを推進 ● 再生可能エネルギー市場販売拡大の推進(C11)					
(5) 製品によるCO ₂ 排出削減貢献量拡大	製品によるCO ₂ 削減貢献量原単位 前年度比 2.7%改善	● 製品貢献量算定製品の拡大 ● 製品貢献算定ガイドラインの見直し ● CO ₂ 削減の絶対値目標の設定	前年度比 3.0%悪化	未達成	製品によるCO ₂ 削減貢献量原単位 前年度比 2.7%改善	● 製品による削減貢献量820万t-CO ₂ 以上 ● 製品貢献量算定製品の拡大					
(6) 2050年のネットゼロ社会を実現する製品・ソリューション製品の開発と拡販	● ネットゼロ社会を実現する製品・ソリューション製品の開発と拡販 ● エネルギー貯蔵、変換、制御による効率的なエネルギー社会を実現する製品・ソリューションの提供	● SDGsゴール7および13に貢献するTDK製品を通じた社会的インパクトを可視化 ● 製品・ソリューション提供活動の把握および活動推進へ向けたすべてのBC/BG ^{※2} とのSSRS ^{※3} ダイアログの実施(実施率100%)	● SDGsゴール7および13において製品を評価するための基準を整理し、評価手法に関する特許を出願 ● すべてのBC/BGとのSSRSダイアログの100%実施	達成	● ネットゼロ社会を実現する製品・ソリューション製品の開発と拡販 ● エネルギー貯蔵、変換、制御による効率的なエネルギー社会を実現する製品・ソリューションの提供	● 前年度に整備した基準を用いて、SDGsゴール7および13に貢献する製品を可視化 ● 製品・ソリューション提供活動の把握および活動推進へ向けたすべてのBC/BGとのSSRSダイアログの実施(実施率100%)					
(7) 化学物質使用リスクの削減	化学物質による環境への影響抑制	危険・有害化学物質の代替推進または使用量削減	自主的代替および顧客要求対応と資源利用効率向上による有害廃棄物削減	達成	化学物質による環境への影響抑制	危険・有害化学物質の代替推進または使用量削減					
(8) 環境社会への貢献活動	自然環境保全／生物多様性保全	● 自然関連のリスク、影響、依存性を、自然関連財務開示タスクフォース(TNFD)ガイダンスに基づき評価 ● 自然保護活動の推進 ● 環境教育および啓発活動の推進	● 社外植樹本数延べ本数拡大 ● 地域小学校の就学環境改善と教育支援による地域社会貢献	達成	自然環境保全／生物多様性保全	● 自然関連のリスク、影響、依存性を、自然関連財務開示タスクフォース(TNFD)ガイダンスに基づき評価 ● 自然保護活動の推進 ● 環境教育および啓発活動の推進					

【2】TDK安全衛生活動



サプライチェーン全体の安全衛生リスク低減に向け取り組む

活動項目	2025年度			
	目標	主な活動施策	実績	達成状況
安全衛生活動	重篤災害 ^{※4} ゼロの達成	事業所責任者による職場巡視の徹底と抽出された重大リスクに対する低減対策の実施	重篤災害0件	達成

活動項目	2026年度	
	目標	主な活動施策
労働環境改善	(10)-a ・製造開発拠点における重篤災害 ^{※4} ゼロの達成 ・製造開発拠点における火災事故ゼロの達成	職場の危険および有害な要因に対し、排除または低減対策の実施
	(10)-b ・製造拠点に対するRBA ^{※5} に基づくセルフチェックの実施 ・サプライヤーに対するCSRセルフチェックの実施	RBA行動規範に沿った継続的な改善活動をサプライチェーン全体で推進

※1 GHGプロトコル分類によるスコープNo.
※2 BC/BG:ビジネスカンパニー/ビジネスグループ
※3 SSRS:Sustainable Strategy Review Sheet
※4 重篤災害:死亡もしくは長期療養を要する障害または可能性のある負傷および疾病
※5 RBA:Responsible Business Alliance